(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-176797
(P2012-176797A)
(43)公開日　平成24年9月13日(2012.9.13)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
B65D 23/04 (2006.01)	B65D 23/04	3E062

審査請求 未請求　請求項の数 1　書面　（全 3 頁）

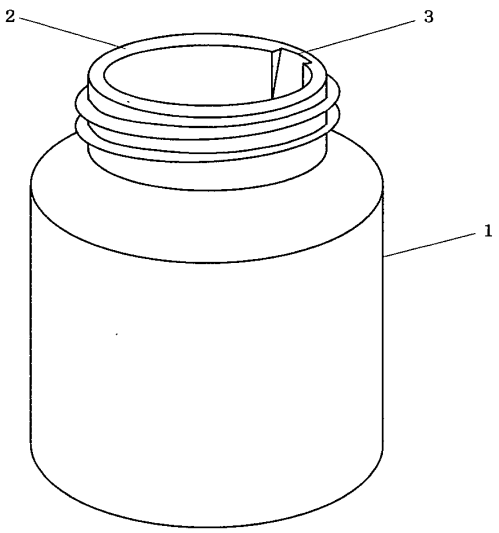
(21)出願番号　特願2011-57188(P2011-57188)
(22)出願日　平成23年2月24日(2011.2.24)

(71)出願人　509033697
佐々木　典政
島根県浜田市下有福町４０３
(72)発明者　佐々木　典政
島根県浜田市下有福町４０３

Ｆターム(参考)　3E062 AA09　AC06　KA04

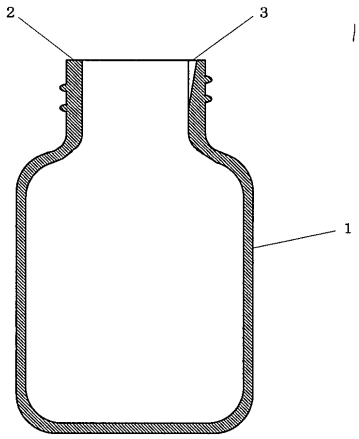
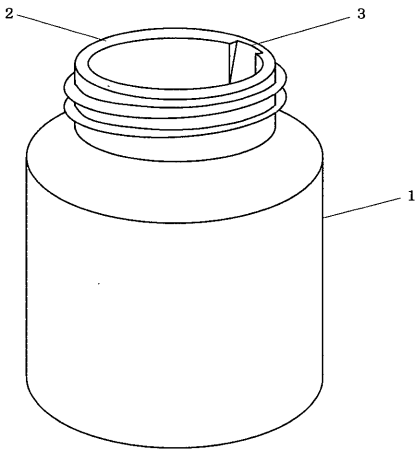
(54)【発明の名称】ガラスびん

(57)【要約】
【課題】本発明は、ガラスびんから内容物をスプーン等を使わずに取り出す際に、取り出す量をコントロールしやすいガラスびんを提供することを課題とする。
【解決手段】びん口の内側に凹部を設け注ぎ口とする構成とした。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
びん口の内側に凹部を設け注ぎ口とするガラスびん。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、内容物を意図する量だけ注ぎやすいガラスびんに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来のガラスびんのびん口は、全周同じ厚さになっている。
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
普通、ガラスびんから内容物を取り出すにはスプーン等を使うが、スプーン等が手元にない場合やスプーン等を汚したくない場合には、ガラスびんを傾けて内容物を取り出すことがある。その場合、ガラスびんを傾け軽くたたいた振動で少しずつ内容物を取り出すが、内容物が意図した量より多く出てしまうことがある。
【０００４】
本発明は、ガラスびんから内容物をスプーン等を使わずに取り出す際に、取り出す量をコントロールしやすいガラスびんを提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
上記の課題を解決するために、本発明のガラスびんは、びん口の内側に凹部を設け注ぎ口とする構成とした。
【発明の効果】
【０００６】
本発明のガラスびんは、それを傾けて内容物を取り出すときに、内容物がびん口から流れ出す際に内容物が作る断面積が小さくなり、流出量のコントロールが容易となる。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】本発明のガラスびんの実施例の側面断面図である。
【図２】本発明のガラスびんの実施例の斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
本発明の実施の形態は、図１、図２のとおりである。
【符号の説明】
【０００９】
１　びん
２　びん口
３　注ぎ口

【図１】



【図２】